

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171501083		
法人名	有限会社 優心		
事業所名	認知症高齢者グループホームゆうしん		
所在地	北斗市開発225番地の8		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171501083&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接している藤崎整形外科クリニックとの医療連携により、入居者の状態変化時の早期発見に努め、より健康に留意した生活を送ることができます。又、リハビリ通院によりADLの維持、向上を図り、なるべく自立した日常生活が送れるよう支援しています。又、入居者の方とのコミュニケーションを大切に、その人の思いを理解することで、その人らしい充実した生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接のクリニックが母体運営法人で5年前に開設した事業所である。利用者と家族にとっては、医療機関であり安心感が強く、ホーム内も明るく開放的な作りである。管理者は職員の休憩室の必要性を運営者に訴え、ゆったりとした部屋の増設や、利用者の洗髪用の伸縮性シャワーを洗面台に取り付けたり、個別での食事を希望する利用者のために一人用の食卓を用意してくれるなど、運営者は現場の意見を十分に聴き入れ、運営に反映させている。職員は利用者本位のケアに努め、個別外出支援に取組んだり、一人ひとりをもっと理解したい考えを示しており、利用者はゆったりと自分のペースで毎日の生活を楽しんでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族のような暖かな雰囲気、信頼のおける健康・生活環境の中、笑顔あふれる人生を共に創造する。」と理念を掲げている。玄関前に提示、職員のネームプレートの裏にも記載し、意識してサービスを提供している。	「家族のような生活環境の中で、健康で笑顔のある人生を共に創造する」ことを理念とし、管理者と職員は、ユニット会議の中で確認や意見の統一を図り、実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、花見の参加やお祭りの見学をしたり、町内会の資源ゴミ回収、ゴミ拾いにも参加している。又、中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。	中学生の職場体験の受け入れや、町内会のお花見、秋まつり、子供相撲大会の見学と、資源ごみ回収や国道沿いの清掃活動に、職員と一緒に参加するなど、地域との交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、相談に随時応じている。運営推進会議の中で、認知症について勉強や実践してきた内容を報告し、家族や、町内の方の理解を得られるよう働きかけた。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	6月、8月に実施している。ホームの活動内容の報告をスライド写真を使って報告したり、避難訓練の実施報告では町内会の方や市の方より意見を頂き、今後検討していきたいと思っている。	運営推進会議は、評価結果と目標達成計画の取り組みや、スライドを使って利用者の日常の様子や行事報告があり、参加メンバーからの意見も活発であるが、2ヶ月ごとの開催には至っていない。	前回の、目標達成計画の中に含まれていた項目であり、地域住民の参加と、意見の取り入れは改善されているが、年3～4回程の開催を、2ヶ月ごとに実施することを期待する。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に連絡をとり、情報交換をしている。	市担当者とは、介護保険関係やスプリンクラーの件など、常に意見交換や情報を共有し、連携を密にしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員がすぐに見れる場所に設置し、ケアに取り組んでいる。玄関の施錠は、ホーム前が病院の駐車場であり、大型バスの出入りが多いため、安全確保の為、現在も行っている。より良い方法を検討中である。	管理者と職員は、身体拘束に関する研修会や事業所内の勉強会で共有認識を図り、拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束マニュアルを職員がすぐに見られる場所に設置し、ケアに取り組んでいる。虐待・身体拘束についての勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム長が研修に参加しており、資料を職員がすぐに見られる場所にファイルしてある。職員は学ぶ機会を設けていない為、勉強会を開いたり、外部研修への参加を検討したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程、重要事項説明書にて説明し、納得を得て契約を結んでいる。契約解除時は、その人の状態に合った方法を話し合い、説明し、納得を得た上で退居している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に契約書、重要事項説明書にて説明している。面会時や運営推進会議でも意見・要望を聞けるようにしている。	特養施設の入所などを含め、家族からの相談事や要望が表出されると、ユニット会議で検討し、家族に安心感を与えるよう敏速な対応を心掛けている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や毎朝のミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている。	全職員が意見が出せるように、ユニット会議の議題を持ち回りにしたり、グループワークでケアのあり方を話し合っている。管理者との個人面談では資格取得の話があり、働く意欲の向上につなげている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員の個人面談を行い、相談を聞ける機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員一人ひとりの勤務評価を行い、個々にあった研修参加の計画をしており、働きながらトレーニングができるように経験年数や力量に合わせ、トレーニング内容を決めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に多くの職員が参加できるように計画をし、同業者と交流することで勉強する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に情報収集し、必ず訪問して面談を行っている。本人の訴えを傾聴し、精神的負担の軽減に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に必ず訪問するか来設して頂き、家族からの要望、困っていること等を傾聴し、精神的負担の軽減を図っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前にアセスメントを行い、その時の課題を抽出し、必要な援助を行っている。又、他サービスの利用が必要と判断した際は、担当の他事業所へ相談することも考えている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>コミュニケーションを重視し、お互いが理解しあえる関係作りに努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と一緒に本人の支援内容を検討するようにしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族と相談しながら、外泊・外出の支援を行っている。</p>	<p>隣接の母体である医療機関の受診後にお友達の訪問があり、以前住んでいたアパートを訪れ管理者の方と逢われたり、家族からの情報を得ながら、関係が継続できるよう支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の関係に配慮し、過ごしやすようなホールの環境整備を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、居宅支援事業所と連絡を取り、間接的に関わっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集、アセスメントをし、本人の思いを把握するよう努めている。	家族から情報を得て、一人ひとりの利用者に合わせ、行動や表情から汲み取り、本人の思いを把握して支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境等の把握のための情報収集には十分な時間をとるようにしている。入居前のみではなく、入居後知り得た情報も共有できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録、バイタル表に毎日の記録を記入しており、心身状態の変化等の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族より情報収集を行い、アセスメントをし、課題の抽出、ケアの方向性を検討。各職種、関係者を含め話し合い、現状にあった介護計画を作成している。	利用者の状態を記録した個別記録を参考にし、家族の意向や要望を取り入れて、モニタリングとアセスメントを繰り返しながら、現状に合った介護計画を担当者が作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入をし、職員間で共有しながらケアを行っている。介護計画の見直しの際は、個別記録からも情報を収集している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望、状況に応じ、その時のニーズに対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、町内会の方、市の職員、地域包括支援センターの職員との情報交換を行い、必要な地域資源を活用できるよう努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。協力医療機関の往診も行っており、健康管理を行っている。	従来のかかりつけ医の受診は可能であり、受診時に、家族の同行が困難な時は職員が代行している。隣接医院でのリハビリと、協力医療機関の往診などで、利用者の健康管理をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している藤崎整形外科の看護師に日々入居者の健康状態を報告しており、入居者と馴染みの関係を築けているため、適切な看護を受けられる環境にある。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に病院関係者と連絡を取り、状態の把握、相談を行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ず説明し、状態の変化時は家族と話し合いを行い方向性を決めている。	契約時に重度化や終末期について事業所としての指針を説明している。状態の変化に伴い家族との話し合いや、チームで情報を共有しながら支援をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の大半は普通救命講習を受講している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、地域への協力も依頼している。緊急時連絡網を作成し、随時更新している。	年2回の消防署の協力で夜間・日中・早朝を想定して火災避難訓練を実施し、訓練終了後に消防署職員から反省と助言をもらっているが、地域住民の参加には至っていない。	隣接している運営法人のクリニックと、コンビニは、夜間が無人となり、近くに民家がない環境にある事業所なので、地域住民と協力体制を整備することが望まれる。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった声がけの仕方、プライバシーに配慮した声がけの仕方に関わっている。	利用者一人ひとりの尊厳を守りながらケアを実践している。個人情報使用書は、契約時に家族に説明し同意を得ている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図る中で、その人の思いや希望を汲み取り、できる限り自己決定できるよう支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースで行わず、都度声がけをして、できる限り自己決定できるよう支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や毛染めの訪問サービスを提供している。衣類は本人の嗜好を考慮し、家族が購入している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の残し具合や味付け、食べやすさ等感想を聞きだしメニューの変更を行っている。毎日職員交替で同じメニューを一緒に摂取している。	献立はホーム長が作成し、パート職員が調理を担当しているが、味噌汁は職員と一緒に作っている。一人ひとりに合わせてきざみ食・ミキサー食などを取り入れ、楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態にあった食事、水分量の提供をしている。又、一人ひとりの嚥下、咀嚼能力等に応じた食事形態で提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあった口腔ケアを行い、清潔を保っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。本人の仕草や行動等から排泄のサインを見逃さないようにし、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。	退院直後や在宅当時に紙おむつを使用していた利用者は、職員が排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけ、歩行介助などを取り入れながら、トイレで排泄できるように支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、乳酸菌飲料の提供を個々に応じて行っている。日常的に体を動かす機会を多く作っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間を決めず、なるべくその人にあったタイミングで入浴できるよう支援している。	毎週2～3回入浴をしている。利用者は午前中に入浴が多く、拒否傾向の方は入浴剤を変えたり、シャワーチェアを利用するなど、楽しく入浴できるよう、職員間で協力体制を築いて支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、その時の状態を把握し、安心・安全・安楽を考えて支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を個別にファイル保管している。服薬中の症状の変化に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、嗜好を把握し、楽しみや安心感を感じられるよう支援している。役割、楽しみがもてるように、趣味等は続けていけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	移動行事を個別で行っており、その人の生活歴や会話の中から出かけた場所を把握して対応している。	年内の行事予定表に、4回の移動行事が計画されており、遠出のドライブを実施している。日中の天気の良い日は近所を散歩したり、買い物など外出支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理可能な小額の金銭を所持している。希望があれば隣のコンビニと一緒に出かけ、欲しいものを購入できるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族へ電話をかけたたり、知人、家族からの電話は繋ぎ、やりとりできるようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように、共有空間の環境整備に努めている。	共有空間は広くて明るく、家具の配置も家庭的であり、不快な臭いや音もなく、廊下やホールに加湿器が置かれて乾燥防止に努め、季節の花や利用者の折り紙の作品が飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、自由に座れるようにソファや椅子を置いている。見やすい位置にテレビを置いてどの位置からも見られるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族と相談しながら、使い慣れた馴染みの家具や日常生活品を用意して頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。又、その人の状態に合わせた、生活しやすい環境作りに努めている。	在宅当時の日常生活用品やベット、タンスが持ち込まれ、大収納ができるクローゼットが備えてあり、利用者は個々に居心地の良さに工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上の環境整備を行い、広い空間を作るようにしている。車椅子の方、歩行できる方共に過ごしやすいような作りになっており、安全に自立した生活が送れるよう配慮している。		